

続・お薬手帳本当に活用できていますか？ メッセージフォルダーを活用し手帳をよりわかりやすいツールに

株式会社アルファーム

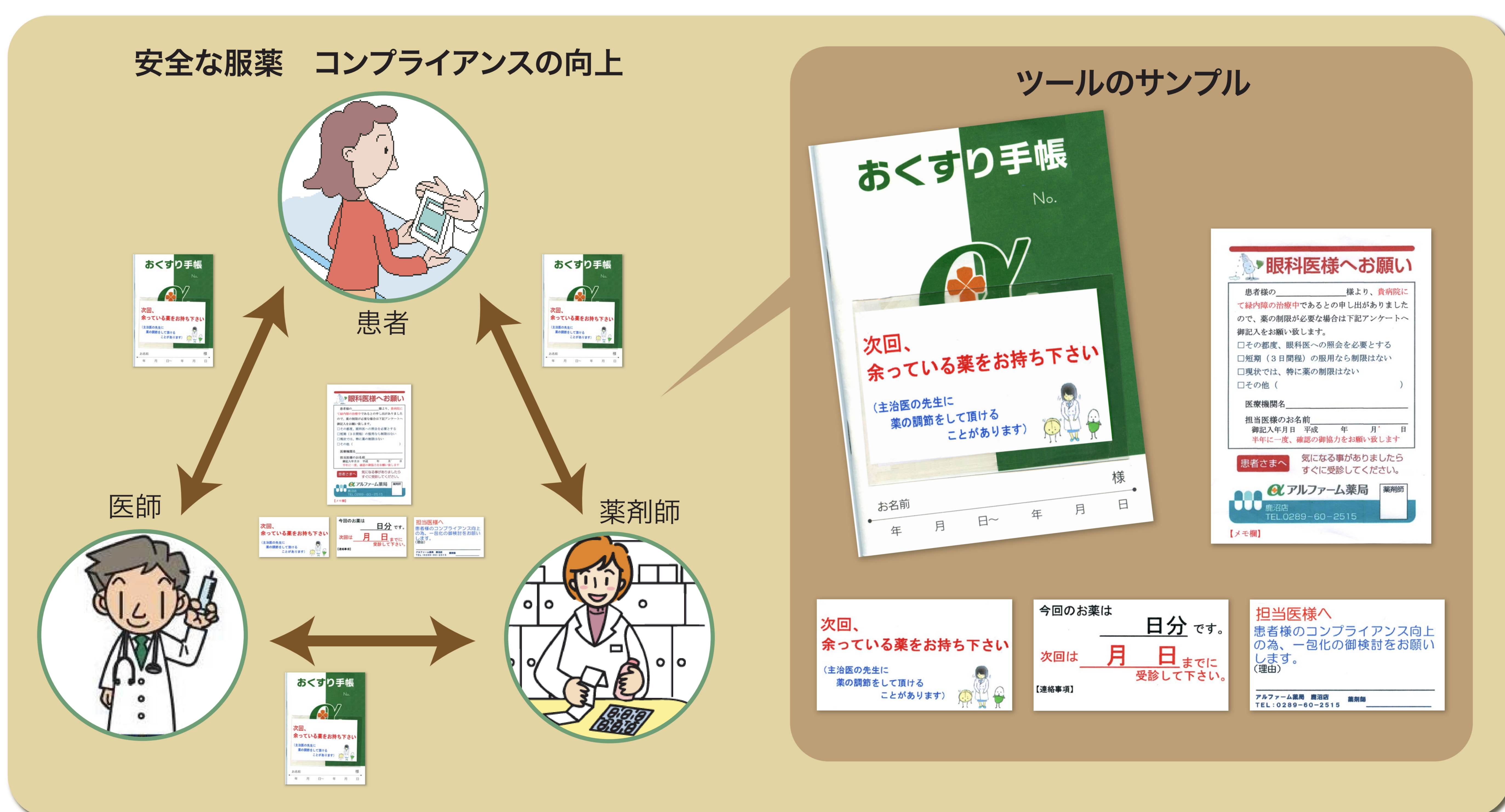
○根本 洋司 橋本 恵子 小澤 由恵

目的

お薬手帳の有効活用について前回課題となった「わかりやすさ」を実現する。
緑内障シートの有効性を再検証する。

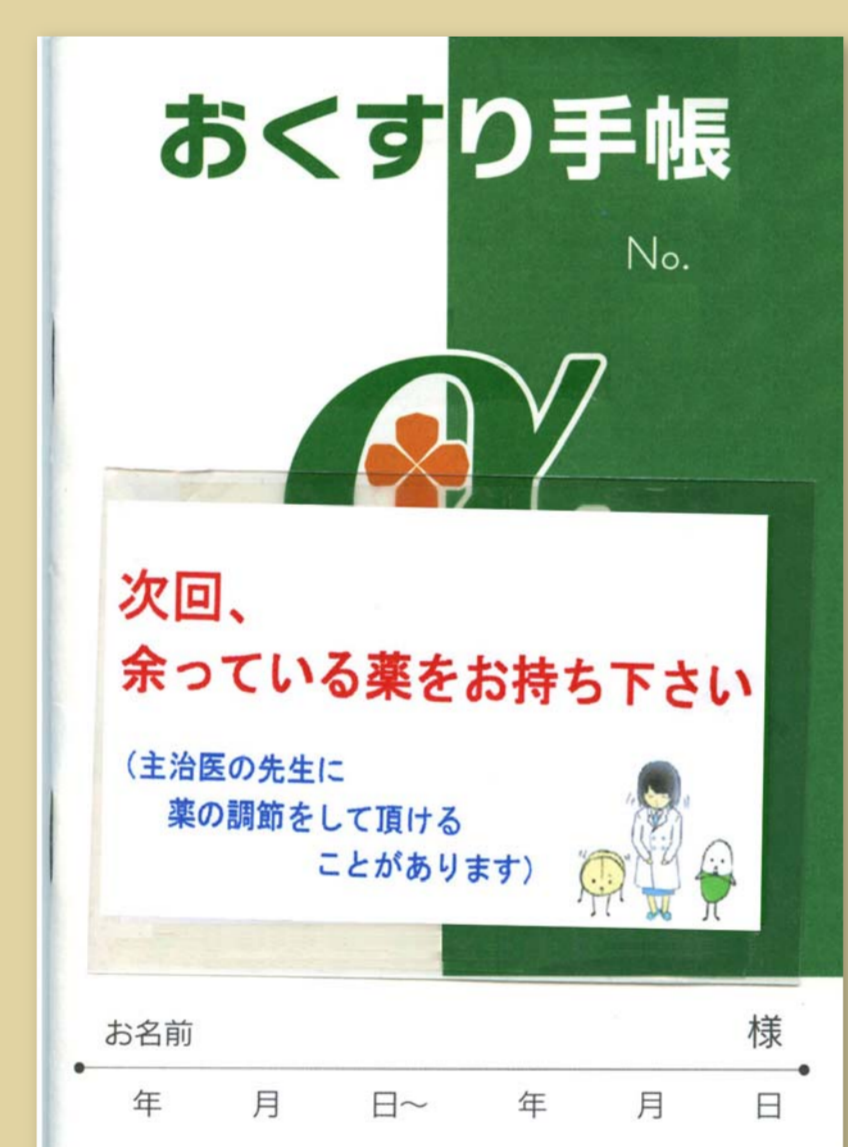
方法

ツール： メッセージフォルダー、メッセージカード、緑内障シートを利用。



結果

「わかりやすさの実現」

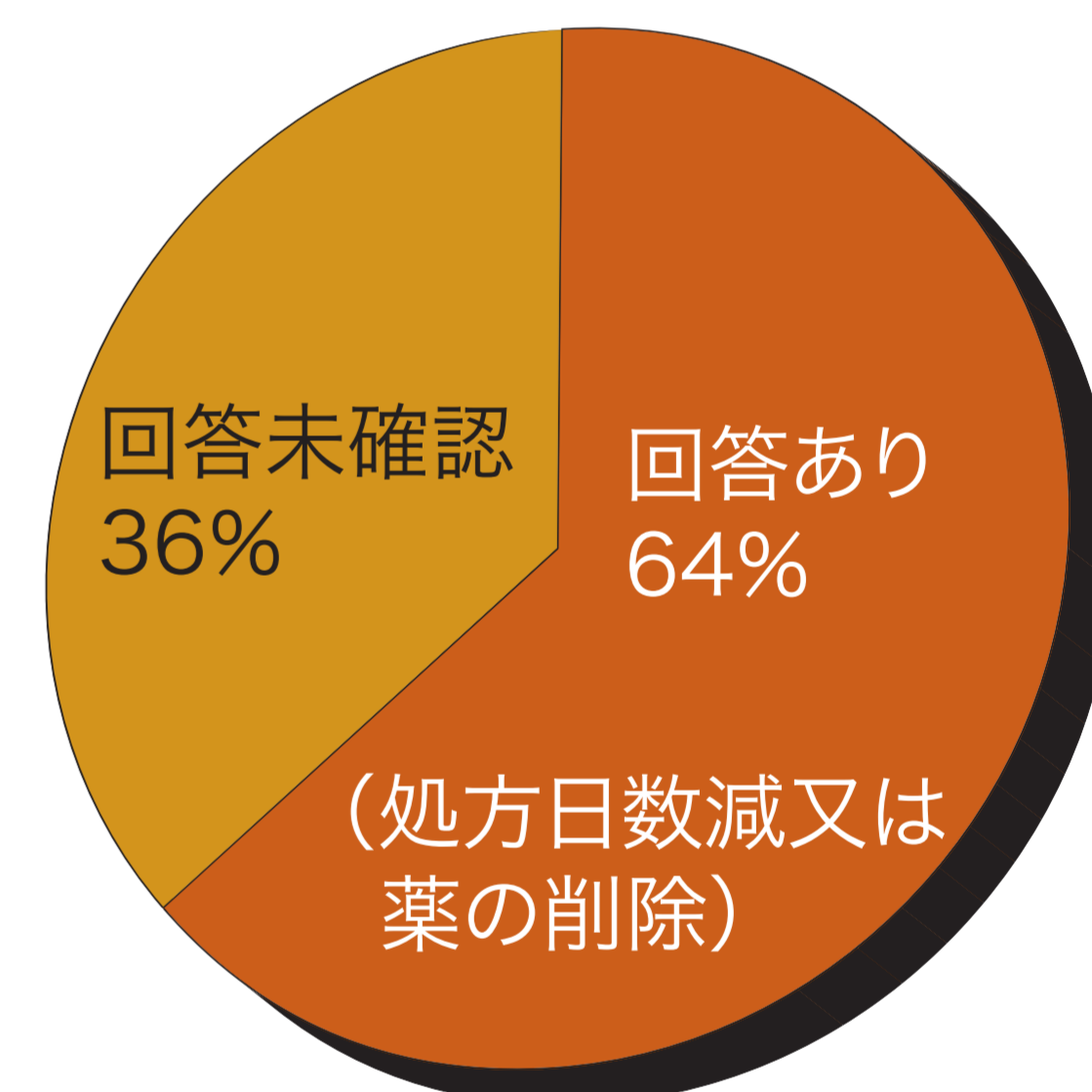


手帳の表紙を利用することで非常に目につきわかりやすくなった。

「コンプライアンス上の問題点を改善」

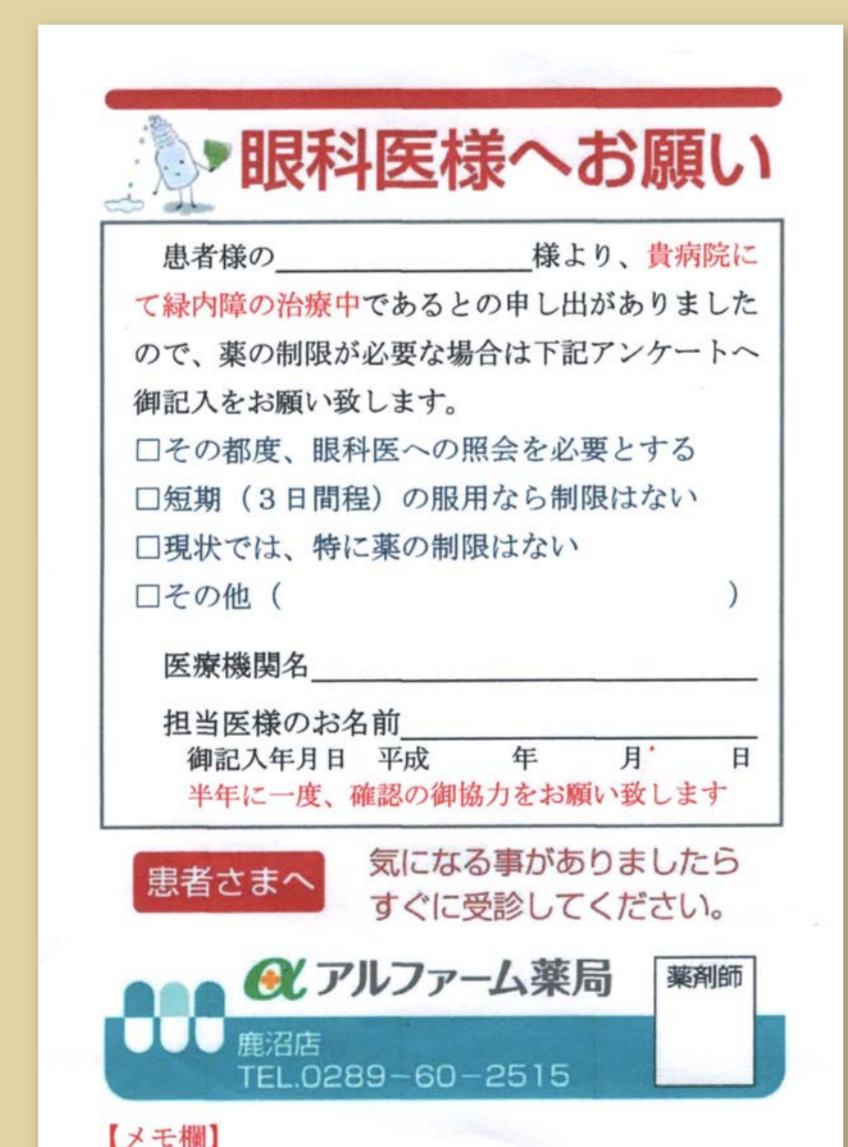
「残薬持参お願いカード」の利用でコンプライアンス上の問題点を発見
↓
一包化または服用法の変更検討(医師への提案)
次回診察予定日の確認(メッセージカードの利用)
↓
コンプライアンス改善に繋がった

残薬持参お願いカード活用の結果



メッセージフォルダーに「残薬持参お願いカード」を添付した患者さんのうち、64%の方が残薬を持参された(全ての患者さんに処方日数の調節又は薬の削除がなされた)

「緑内障シート利用により疑義照会の回数が減少」

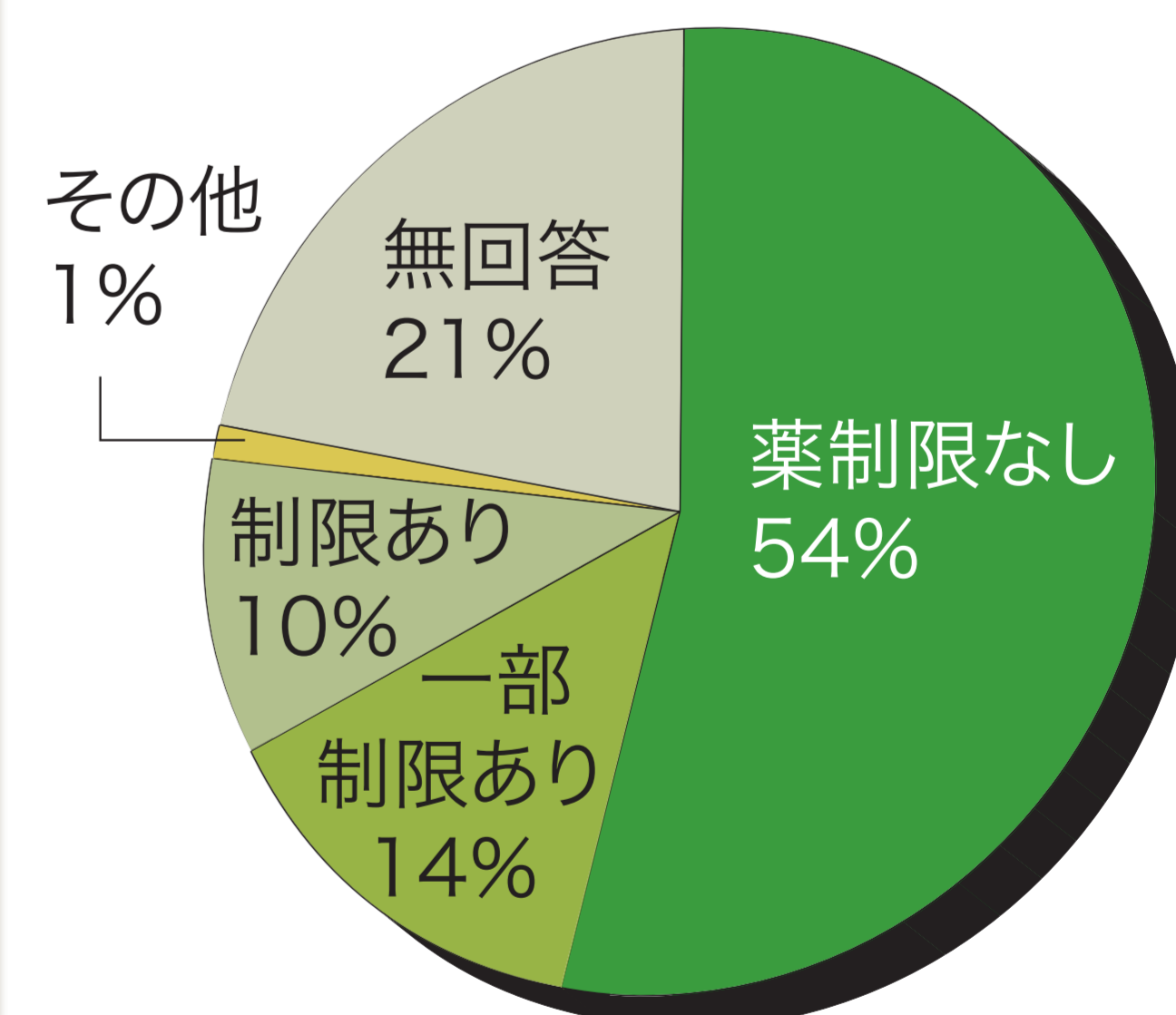


疾病禁忌だが投薬可能な薬剤の削除を防止
↓
患者さんの治療上のメリット喪失を防ぐ

「疾病禁忌(緑内障)の薬剤処方有無のチェック機会UP」

緑内障シートでの確認事項を薬歴(患者特記)へ記入(随時更新)
↓
汎用薬剤約30品目(感冒剤、鎮痙薬、BZP系薬剤、抗アレルギー薬、泌尿器系薬剤、循環器系薬剤等)について重点的にチェック

緑内障シート活用の結果



緑内障シートをお薬手帳に貼り付け、眼科受診時に担当眼科医にシートへの記入をお願いした。そのうち79%の回答が得られた。

考察

ツールを利用するとコンプライアンス上の問題点がみえてくる。原因は様々であり患者さん個々に合わせた対策を考慮する必要性を感じる。特に医師と連携しての対策は効果的であるので更なる方法を模索していきたい。

課題

今後のコンプライアンス改善対策について、幅広い視野で検証していきたい